

はたいて、いまだ。しじんの いっけ
を、よく、きいて、どんな、つらい、しごとで
も、ほねおしめないで、あさから、ばんま
ではたらきました。しじんは、けちんとう
の、よくばり、で、フレッドに、ぜんぜん
きゆうさんを、くれません。
フレッドは、三ねんも、はたいて
いまだ、その、あいた、
一も、も、おかねを
もらなかつたの
です。



サンデー毎日 婦人画報
6月29日号



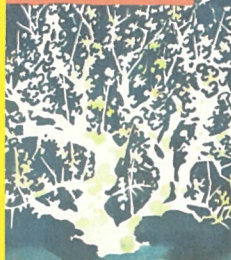
書籍の仕事

向井潤吉の場合

二〇〇八年八月一日(土)―十一月三〇日(日)
世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

開館時間：一〇時―十八時(館内は十七時三十分まで) 休館日：毎週月曜日(ただし休日重なった場合は翌日)
観覧料：一般200円(60円)、大高生150円(120円)、中高校生100円(80円)、65歳以上及び
障害者の方100円(80円)※(内は20名以上の団体料金、小中学生は土日祝日及び夏休みの間無料、
※障害者で小・中・高・大学生、および障害者の介護者(当該障害者一人につき、一人に限る)は無料。

梅里先生行状記
吉川英治



民國少刊



其を身につけてみたにもか、はらず、機織に舟艇への移
り、敵に覺られることもなく、ヘルツ機織に乗り入れ、こ
のでせう。
な、機織に乗りつれて、霧ともつかず陽の光りとも
明りが、水霧に兩岸から押し寄せ、やがて水霧に群ける
みるやうに機に映つてきました。
三百米、二百米、...勇士たちの機に、巨大な水塊の山
りとも飛び込んだ瞬間、舟艇の群はザツと一齊に海岸へ
ました。

戦後の復興にともない失われていった日本の伝統的民家の姿を、生涯を通じて追い求めた向井潤吉。そんな彼も、若かりし頃は実に幅広いモチーフを描いていました——それが今回紹介する、彼の書籍の仕事です。

写真図版が今ほど印刷媒体に普及していなかったこと、またイラストレーターという固有の職業も現在ほど確立されていなかったことから、昭和初期に活躍した画家の多くは、自らの安定した収入の一助として本の挿絵や装丁の仕事を手がけていました。東郷青児、堂本印象、猪熊弦一郎、小磯良平、宮本三郎——そして向井潤吉も例外ではなかったのです。

子供向けのファンタジー溢れる絵本や童話、国内外の小説の挿絵、当時の有名女優を描いた週刊誌の表紙のシリーズ、第二次大戦中に出版された戦争記録集の挿絵…勿論その中には、のちの彼の画風を暗示させる日本の古き良き農村の姿もありますが、我々の想像をはるかに超える多彩な世界を彼は描いています。また、詩情溢れるリアリズムで貫かれた晩年の画風とは大きく趣を異にするこれらの仕事には、それぞれのモチーフならではの技法が巧みに用いられました。これらは今までまとめて紹介されることのなかった向井潤吉の新たな豊かさを、いっそう明らかにしてくれることでしょう。

本展ではこうした書籍の展示に加えて、彼の従来から知られる伝統的民家を描いた油彩画、その卓越した描写力を惜むことなく発揮した素描をあわせて展示することにより、彼の画家としての広範な仕事を余すことなくご紹介いたします。

1			2		
3	4		9	10	
5	6		11	12	
7	8		13	14	
15					

- 1.『あそび』 8集1編一号 p.2-3 1955年
- 2.絵本『うかれバイオリン』 1959年 p.1-2
- 3.『サンデー毎日』 1952年
- 4.〈水の邊り〉『婦人画報』表紙 1931年
- 5.大東亜戦争絵巻『フィリッピン島の戦い』表紙 1944年
- 6.ドイル著／林克己訳『シャーロック・ホームズの冒険』 1963年
- 7.絵本『うかれバイオリン』表紙 1959年
- 8.新居格『街の哲学』表紙 1941年
- 9.吉川英治『梅里先生行状記』表紙 1956年
- 10.雑誌『週刊少国民』 1943年
- 11.『週刊朝日』 1934年
- 12.棟田博『北京恋ひ』 1947年
- 13.ヴェルヌ著／石川湧訳『海底二万里』 1962年
- 14.上田廣『黄塵』表紙 改造社 1937年
- 15.『アツツ島血戦』 1944年



〈田中絹代〉『週刊朝日』1957年2月17日号

書籍の仕事 向井潤吉の場合

二〇〇八年八月二日(土) — 十一月三〇日(日)
世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館



世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL 03-5450-9581

本館情報

世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL=03(3415)6011(代)

企画展

「建築がみる夢——石山修武と12の物語」
6月28日(土) — 8月17日(日)
「ダニ・カラヴァン展」
9月2日(火) — 10月21日(火)
「山口薫展 都市と田園のはざまで」
11月3日(月祝) — 12月23日(火祝)

収蔵品展

「チルドレン・ミュージアム物語が聞こえる——ぼくたちのお気に入り」
6月27日(金) — 9月7日(日)
「アウトサイダー・アートの作家たち」
[特別同時展示] — 大地の歌を描く人々〜ベルギー・クレアムの画家たち〜
9月19日(金) — 11月30日(日)

分館情報

2008年8月2日(土) — 11月30日(日)

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL=03(5483)3836
www.miyamotosaburo-annex.jp

「宮本三郎の日常風景——暮らしを描く」

清川泰次記念ギャラリー

〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1 TEL=03(5450)9581
www.kiyokawataiji-annex.jp

「WORDS OF A PAINTER——清川泰次 その思索と絵画」

お問合せ＝〒154-0016 世田谷区弦巻2-5-1 TEL=03(5450)9581 www.mukaijunkichi-annex.jp／交通＝東急田園都市線「駒沢大学」駅 西口徒歩10分／東急世田谷線「松陰神社前」駅徒歩17分／東急バス(渋05) 渋谷～弦巻営業所「駒沢中学校」徒歩3分／東急バス(等11) 祖師谷折返所～等々力「駒沢三丁目」徒歩3分／東急バス(渋11) 渋谷～田園調布「駒沢大学駅前」徒歩10分／東急バス(渋12) 渋谷～二子玉川「駒沢大学駅前」徒歩10分